

# ダイネツ商事株式会社

## 38 期 環境経営レポート

(対象期間：2021 年10月1日～ 2022 年9月30日)



**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**

作成日：2022年12月25日  
更新日：2023年3月23日

## 目 次

項 目	ページ
ごあいさつ・会社方針・品質方針	3
環境経営方針	4
組織の概要	5
事業・製品の紹介	5
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	6
主な環境負荷の実績	7
環境経営目標及びその実績	7
環境経営計画の取組結果とその評価	8 ~ 12
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	13
緊急事態対応訓練	13
代表者による全体の評価と見直し・指示	14
これまでの環境活動の紹介	14



## □ごあいさつ

原点としては文化10年に鍛冶炭問屋『葛籠屋（つづらや）』として創業したことが始まりです。現在では一般熱処理を担う㈱ダイネツ、自動車関連部材を主として熱処理する三洋金属熱錬工業㈱、鋼板を加工販売するダイネツ商事㈱の3社で事業展開しています。

熱処理加工で扱っている金属は特殊鋼になります。今後を見据えた場合、特殊鋼のみに特化するリスクを回避するため、普通鋼に目を向け鋼板の販売・加工に事業展開するために、商社としての機能を有するダイネツ商事㈱を1984年に設立しました。

設立後は加工・梱包し客先まで配達し拡販に繋がるように、どんな細かな仕事でも受け対応しました。その地道な活動が徐々に評価され、住宅関連部材の商圏を獲得。高度なユーザーニーズに応えるため、技術・サービス・バックアップなどの総合力を磨いてきました。

しかし利益を追求するだけでは現在のダイネツは存在していません。地域に密着・貢献してきたからこそ、どんな時代の荒波も乗り越えてきました。今後もダイネツを応援してくれた方のご支援に応えるように歴史に名を刻むような仕事をしたいと考えています。

代表取締役社長 高村 和正

## I.会社方針

- 1.見直そう。設備と作業の安全を！
- 2.努めよう。地球にやさしい環境を！
- 3.考えよう。ニーズに合ったコストと品質！

制定：2005年1月1日

代表取締役社長 高村 和正

## II.品質方針

### ニーズにあったコストと品質を提供し、顧客満足を得る

当社は、顧客満足を得る製品実現のため目標を設定して、品質マネジメントシステムを有効に活用し、継続的に改善します。

#### 【基本方針】

- 1、より良いものづくりのため、現状に満足せず継続的改善を行います。
- 2、社員の能力・技能レベルアップのため、教育・訓練を実践します。
- 3、当社の「品質」とは各グループの活動内容を活性化させることである。
- 4、不具合発生時は、徹底的に掘り下げて、真の原因を究明する、真の原因究明が出来なければ、有効的な対策はできない。

制定：2017年6月20日

専務取締役 山原 圭三

## 環境経営方針

### <環境経営理念>

《基本理念》私たちは、自社の行う事業活動の全域で、二酸化炭素削減に向けた“地球環境保全への たゆまぬ配慮”に努め、品質・価格・納期と同様 《 自然と環境に優しく 》 をモットーに、日々環境活動に取り組みお客様から信頼される企業を目指し、従業員一丸となって継続的に改善活動に取り組んでまいります。

### <環境保全への行動指針>

《基本理念》の実現の為、下記「環境目標」を設定し、自主的・積極的・継続的な取組を図ります。また、環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

1. 節電の推進で二酸化炭素排出量を削減します。
2. 車両のエコドライブ等に努め二酸化炭素排出量を削減します。
3. ロスを最小限に抑え、材料を有効に活用します。
4. 廃棄物の削減を図るため有効利用を検討し、環境負荷の軽減化に努めます。
5. 水使用量の削減に努めます。
6. エコアクション21等の環境への取組を通して環境負荷低減を図り、企業価値向上を目指します。



7. 環境方針の周知徹底を含め、環境学習を通じた社員全員の環境意識の向上を図ります。

制定日：2005年1月5日

改定日：2020年12月15日

専務取締役 山原 圭三



## □組織の概要

## (1) 名称及び代表者名

**ダイネツ商事株式会社**  
代表取締役社長 葛村 和正

## (2) 所在地

本社 大阪府堺市堺区匠町17-7

## (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 総務部長 木田 和匡 TEL：072-227-1431  
担当者 品証部 辻野 徳男 TEL：072-227-1431

## (4) 事業内容

住宅部材を主体とした金属加工品の製造・販売

## (5) 事業の規模

売上高 8,307 百万円

	本	社
従業員	名	49 名
延べ床面積	m <sup>2</sup>	5600 m <sup>2</sup>

## (6) 事業年度

10 月 1 日 ~ 9 月 30 日

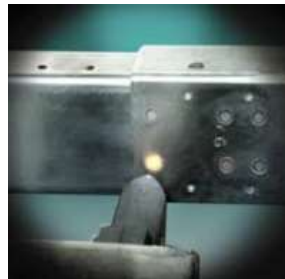
## □認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：ダイネツ商事株式会社  
対象事業所：本社  
対象外：全社対象範囲  
活動：住宅部材を主体とした金属加工品の製造・販売

## □事業や製品(商品)の紹介

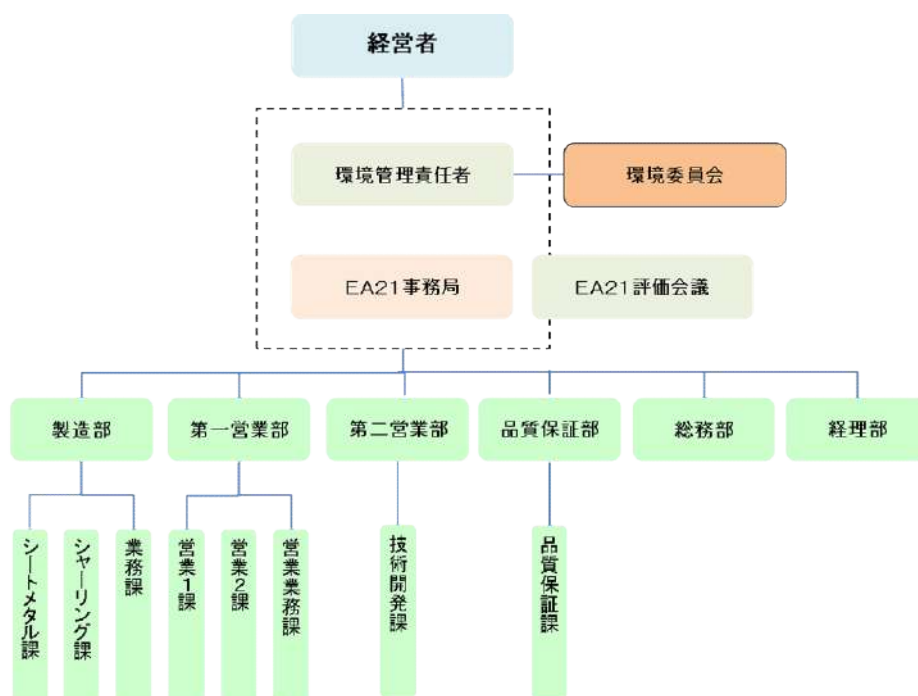
鋼板の販売・加工に事業展開するために、商社としての機能と自社工場での加工も行っています。

主に住宅関連部材の加工及び販売を行っています。



## □有資格一覧

- ・ 振動関係公害防止管理資格
- ・ 騒音関係公害防止管理資格
- ・ 第一種衛生管理者
- ・ 第二種電気工事士
- ・ プレス機械作業主任者
- ・ クレーン運転の業務に係る特別教育
- ・ 玉掛技能講習
- ・ フォークリフト運転技能講習
- ・ 安全管理者選任時研修
- ・ 防災管理者講習
- ・ ガス溶接技能講習
- ・ アーク溶接特別教育
- ・ I S O 9001 内部品質監査員養成講習
- ・ 品質管理検定
- ・ 仮設工業会品質管理責任者講習
- ・ 産業用ロボットの教示等特別教育



《役割・責任・権限表》

■代表者（経営者）

1. 環境管理責任者他必要な責任者を任命する。
2. 環境経営システム構築・運用・維持に必要な経営
3. 環境経営に関する基本理念・基本方針を制定し、基本的な環境目標を設定する。
4. 環境経営システムの構築・運用に関する情報を収集し、方針・目標等システムの見直し・改訂を指示する。

■環境管理責任者

1. 環境経営最高責任者を補佐し、環境経営システムの構築と運用を図る。
2. 環境経営に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図る為、環境経営推進委員会を運営する。

■部門推進責任者

1. 自己の管理範囲内に於いて、全員参画に依る環境経営システムの運用及び管理に責務を負い、部門内の必要な人材育成、パフォーマンスの向上を図る。
2. 他部門推進責任者との連携を密にし、特に共通取組事項については積極的にその整合・推進を図る。

■各課推進責任者

1. 部門推進責任者の命を受け、環境経営システムの運用及び管理を行う。
2. 具体的活動施策の立案・推進に当たっては、副推進責任者と充分協議し、その指導に当たる。

■活動計画担当者

1. 各部門の「環境活動項目」決定後、該当担当項目について、毎月実績把握及び差異分析を行う。
2. Q及び年間の総括時（「環境委員会」）には、その内容をコメントとしてまとめる

■全従業員

1. 「環境経営方針」を理解し、「環境経営活動」の策定・実施にあたって、活動計画担当者の要請がある場合は協力する。
2. 日常活動においては、エコアクション21の推進に自主的・積極的に取り組む。

■環境委員会

1. 4半期に1回実施担当者以上を招集し、活動状況及び目標達成報告を受けて是正が必要と判断すれば是正指示を促す。

□主な環境負荷の実績

項目	単位	36期	37期	38期
		2019.10.1～	2020.10.1～	2021.10.1～
二酸化炭素総排出量	kg-CO <sub>2</sub>	220,201	197,509	207,831
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	1,642.80	2,218.80	2,263.90
産業廃棄物排出量	kg	12,410.00	12,690.00	9,790.00
水使用量	m <sup>3</sup>	619	620	697

※二酸化炭素排出係数 0.734 kg-CO<sub>2</sub>/kWh 電力会社開示の係数

※廃棄物排出量には再資源化を含む。

※化学物質は使用していません。

□環境経営目標及びその実績

項目	年度	基準値 (基準年)	38期 2021.10.1～		評価	39期	40期	
			(目標)	(実績)		2022.10.1～ (目標)	2023.10.1～ (目標)	
電力による二酸化炭素削減(事務所棟)	kg-CO <sub>2</sub>	24,850	24,800	25,644	×	24,750	24,700	
	基準年度比	36期	99.8%	103.2%		99.6%	99.4%	
	1, 3Q原単位	kwh/日	211.93	192.86	187.35	○	192.86	185.39
	2, 4Q原単位	kwh/日	265.37	241.49	274.32	×	240.16	238.83
電力による二酸化炭素削減(工場棟)	kg-CO <sub>2</sub>	105,937	105,831	116,824	×	105,725	105,619	
	基準年度比	36期	99.9%	110.3%		99.8%	99.7%	
	原単位	kwh/個	2,710	2,656	2,490	○	2,588	2,575
自動車燃料による二酸化炭素削減【ガソリ】	kg-CO <sub>2</sub>	48,080	45,435	40,201	○	45,195	44,955	
	基準年度比	28期	94.5%	83.6%		94.0%	93.5%	
	原単位	km/ℓ	14.60	15.40	16.04	○	15.48	15.55
自動車燃料による二酸化炭素削減【軽油】	kg-CO <sub>2</sub>	41,221	39,572	24,998	○	39,366	39,160	
	基準年度比	31期	96.0%	60.6%		95.5%	95.0%	
	原単位	ℓ/人・月	6.54	6.80	7.35	○	6.83	6.87
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO <sub>2</sub>	220,087	215,638	207,667		215,036	214,434	
事務所棟廃棄物の削減	kg	1,468	1,343	1,209	○	1,336	1,328	
	基準年度比	28期	91.5%	82.4%		91.0%	90.5%	
工場棟廃棄物の削減	kg	305	300	271	○	299	297	
	基準年度比	36期	98.5%	88.7%		98.0%	97.5%	
製造部スクラップ発生率(シャーリング課)	%	7.52%	7.29%	7.35%	×	7.27%	7.25%	
	基準年度比	34期	96.9%	97.6%		96.6%	96.3%	
JPラインスクラップ発生率(シートメタル課)	%	11.1%	10.9%	7.6%	○	10.9%	10.8%	
	基準年度比	35期	98.5%	68.4%		98.0%	97.5%	
水道水の削減	ℓ/人・月	1,171	1,169	1,101	○	1,166	1,164	
	基準年度比	37期	99.8%	94.0%		99.6%	99.4%	
企業価値向上	行動目標(次項による)							

※都市ガスは少量のため削減目標としていません。

※一般廃棄物は焼却可燃物を削減目標の対象としています。

※原単位 日：稼働日数 個：出荷個数 スクラップ発生率=スクラップ重量/材料重量

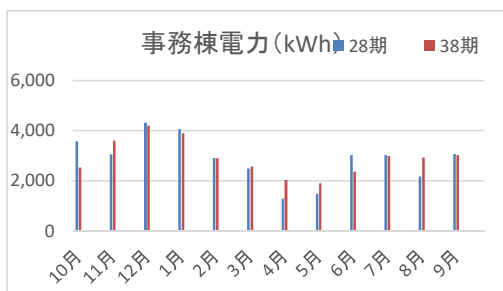


□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標: ○達成 ×未達成

活動: ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減(事務所棟)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	今期は、消灯活動や室外機清掃等活動を行いました。目標数値の達成はできませんでした。 理由は、社内で発生したコロナによって、事務所内の換気状態での空調機使用に伴うエアコン稼働負荷大による電力量増加です。省エネ結果は、消し忘れ巡回回数は、499回節電時間は、459時間6分節電金額は、40,769円。換気の負荷削減のため空気清浄機の導入を検討する。
会議室及び応接室等の消し忘れパトロールの実施	△	
事務所内における昼休み消灯の実施	○	
年間電力量の掲示	○	
空調(室外機)データの取りまとめ	○	
昼休みにおける使用空調機の節電の実施	○	
室外機設定温度の適正化	○	
空調機タイマー設定	△	



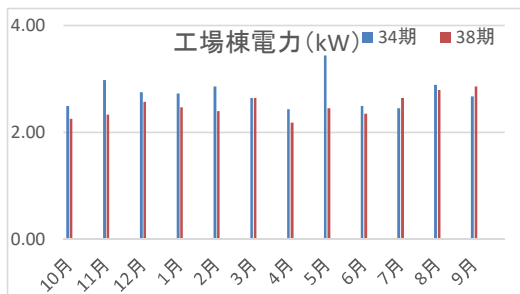
取組紹介欄



・エアコンSW上部にSDGsロゴを貼り付け。

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
28期	3,580	3,052	4,319	4,068	2,915	2,495	1,296	1,490	3,031	3,031	2,175	3,067
38期	2,533	3,614	4,198	3,896	2,892	2,561	2,025	1,901	2,370	2,991	2,931	3,026

電力による二酸化炭素削減(工場棟)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	電力量使用量としては未達成であったが、原単位管理(電力量/出荷点数)での目標値クリアは出来た。 かつてない程の繁忙期と人員減少の影響による残業時間増加対前期比160%によりマシン稼働時間増加及び照明点灯時間増加したことにより、総量増加はやむを得ない。原単位はクリアしている。 その中でも目標達成手段を確実に実践していることは、評価で出来るので今後も継続する。日々に目を向け、消灯や設備の電源OFFに注視し極力ムダのないようにつとめます。
使用していない箇所の照明は消すようにする。	○	
休憩時はマシンのモーターをOFFにする。	○	
月に一回生産会議にてデマンド値の報告を行う	△	
照明の間仕切りを行う。	○	
退社時にパソコンの電源を切る。	○	
タレパン加工の見直しを行い加工効率を向上させ	○	
残業時間の平準化を行い最終稼働時間を早くす	○	
LED照明の照度を下げる。	△	



取組紹介欄

タレパン加工方法の見直し

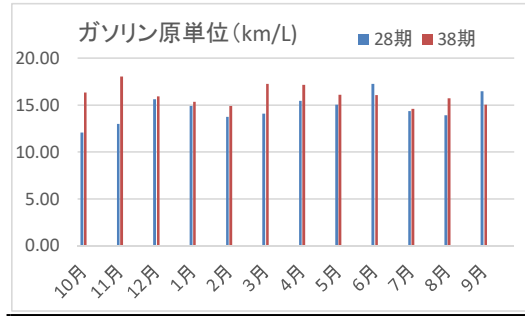


加工工程を見直し、加工時間を削減した。(電力削減)

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
34期	2.49	2.98	2.75	2.73	2.86	2.64	2.43	3.44	2.49	2.45	2.89	2.67
38期	2.25	2.33	2.57	2.47	2.40	2.64	2.18	2.45	2.35	2.64	2.79	2.86



自動車燃料による二酸化炭素削減【ガソリン】	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【営業】38期は目標値をクリアできた。各自運転する際、4ヶ月だけ目標値を超えてしまったが、それもわずかであったので、各自エコドライブを心がけた成果だと思う。今期は寒い時期と暑い時期に目標値をクリアできなかったが来期はクリアできるように達成手段を考えたい。また今回はタイヤ空気圧センサーの後付けで、ドライバーの意識も以前より向上したので、今後水平展開を行いたい。燃費目標はクリアしている。
空気圧チェック、タイヤ目視確認 1回/月 測定記録を月末に確認し空気圧±0.5k g 場合適正値にする	○	
各車運転日報に燃費、空気圧の目標数値を記載	○	
月末に不要な荷物を積んでいないか確認し積んでいれば直ちに解消する	○	
オイル、エレメント交換を5,000 km毎に交換する	○	
燃料補給を20リットル/回に決め軽量化を図る	○	
後付けのタイヤ空気圧センサー取付による管理強化 アイドリング禁止シールを車内に掲示	○	

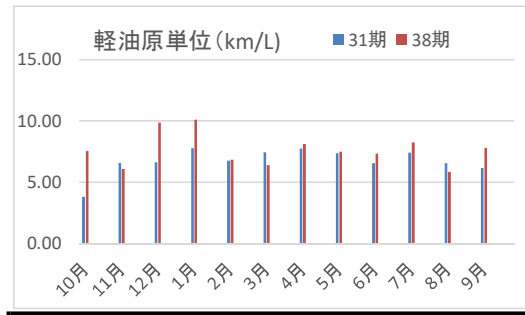


取組紹介欄

タイヤ空気圧センサーを取付け常時監視可能にした。

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
28期	12.07	13.01	15.64	14.88	13.71	14.09	15.44	15.01	17.26	14.37	13.92	16.45
38期	16.36	18.04	15.92	15.33	14.89	17.27	17.16	16.09	16.06	14.62	15.71	15.06

自動車燃料による二酸化炭素削減【軽油】	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【製造】38期は全てのQで目標達成できました。達成できていない月もありましたが補正燃費では全て達成できていました。また今期の検証の結果、補正燃費の方が確実な数値を出せているので来期は補正燃費メインで進めて行きます。
配達ルート効率化を図る。	○	
各車両内に「アイドリング停止」を啓発する掲示	○	
タイヤの空気圧点検を1回/月行う。	○	
定期的にオイル交換（エンジンオイル・ミッションオイル）を行う。	○	
Q毎にエアコンフィルターの清掃を行う。	○	
向け先別での燃費調査を行う。	△	
各車両に毎月の燃費・走行距離・目標値の掲示	○	

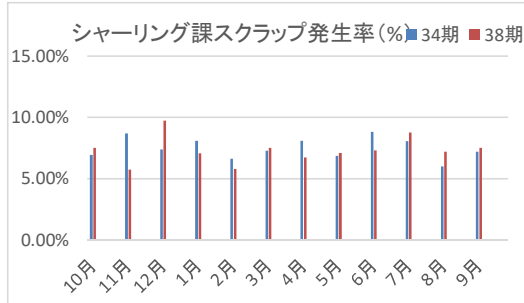


取組紹介欄

・車両への燃費・目標値の提示と実施責任者からのコメント掲示

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
31期	3.82	6.58	6.62	7.79	6.78	7.45	7.75	7.37	6.57	7.44	6.56	6.16
38期	7.56	6.10	9.89	10.11	6.85	6.39	8.13	7.49	7.35	8.25	5.86	7.81

製造部スクラップ発生率(シャーリング課)		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標		○	全てのQで目標達成することが出来ました。コイルのトップでの良品選別による材料活用。コイルトップの切断を最小限(10mm程度)に抑えてスクラップ削減。歩留まりの良い製品、良くない製品に合わせてコイルの大小を選別してスクラップ削減と各Qで色々と活動を行ってきました。今期の活動を来期に繋がるように活動していきたいと思います。
トップエンドの有効活用		○	
各マシンの歩留り推移グラフを作成し掲示す		○	
クレーン・加工ミス削減による不良品の削減。		○	
梱包方法を改善しスチールバンドの使用量を削減		○	
トップエンド専用台を設け意識改革		△	



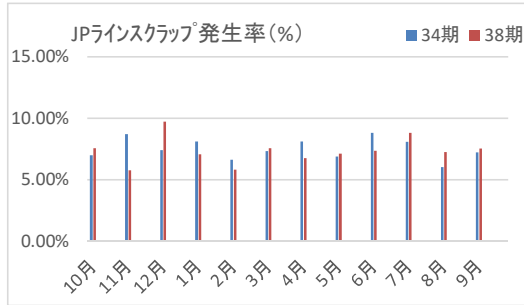
取組紹介欄



トップエンド専用台車  
→スクラップ量の可視化により、作業者の意識改善

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
34期	6.97%	8.70%	7.40%	8.10%	6.62%	7.31%	8.10%	6.88%	8.82%	8.08%	6.02%	7.21%
38期	7.54%	5.76%	9.72%	7.07%	5.80%	7.54%	6.74%	7.11%	7.33%	8.78%	7.23%	7.52%

JPラインスクラップ発生率(シートメタル課)		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標		○	全てのQで目標達成することが出来ました。コイルのトップでの良品選別による材料活用。コイルトップの切断を最小限(10mm程度)に抑えてスクラップ削減。歩留まりの良い製品、良くない製品に合わせてコイルの大小を選別してスクラップ削減と各Qで色々と活動を行ってきました。今期の活動を来期に繋がるように活動していきたいと思います。
スリットコイルのトップ内での良品の選別。		○	
金型メンテナンスによる不良品発生抑制の抑制。		○	
歩留り推移グラフを作成し掲示する。		○	
1日分のコイルトップエンドをまとめてパッキンへ入れる。		○	



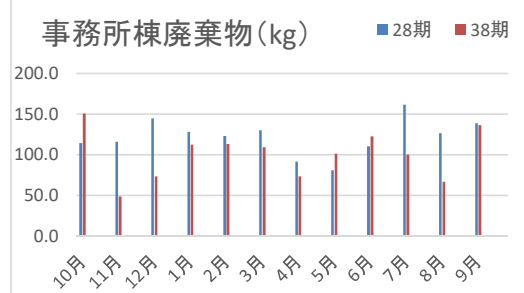
取組紹介欄



金型メンテ

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
35期	11.2%	10.3%	10.7%	10.8%	13.3%	10.5%	12.0%	11.0%	10.4%	10.0%	13.0%	10.4%
38期	10.1%	6.6%	8.9%	7.3%	7.6%	8.0%	7.3%	7.3%	7.0%	7.5%	5.7%	7.5%

事務所棟廃棄物の削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標		○	コピー用紙は毎月使用量を掲示することにより個々の意識向上に繋がっている。 裏紙の再利用に関しては、徹底出来ていると考える。 カタログの郵送停止に関しては、DMなどが多く展開が進まなかった。今後はカタログに注力し、展開したいと考える。
裏紙の再利用		○	
コピー用紙使用枚数の把握(コピー用紙の削減) ※注力		○	
廃棄紙の中でカタログなどエコBOXで廃棄可能な出荷依頼書のPDF送信化でプリントアウト枚数をカタログ類の郵送の停止		○	
廃棄紙削減の改善提案		△	
		△	



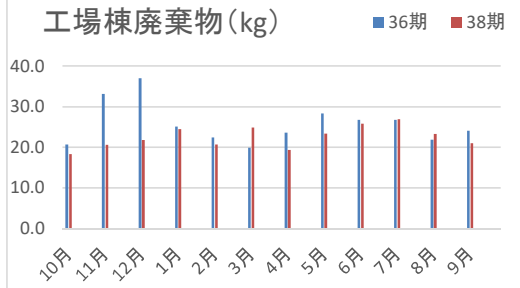
取組紹介欄



事務所内廃棄置き場にSDGs掲示

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
28期	114.5	116.1	144.6	128.5	123.2	130.2	91.6	80.7	110.6	161.8	126.8	139.0
38期	150.7	48.6	73.6	112.4	113.2	109.3	73.6	101.3	122.7	100.4	66.7	136.4

工場棟廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	38期全体では、22.6kgと目標数値を達成できた。PPバンドの削減と、ラベルシールの削減を継続して行えたことで目標達成につながったと思う。未達成月が二月あったので、来期は全ての月で目標達成できるように、少しでも削減できるものを見つけ活動していきたいと思う。
パツカン回収時のデータ取り及び回収回数削減	○	
ラベルの台紙をリサイクル。	○	
梱包資材を再利用し、廃プラの排出量を削減。	○	
ゴミ袋の中身だけを捨てる。	△	
梱包方法改善による廃棄ゴミ削減。	○	
ダンボール・梱包紙での梱包時における梱包資材のロスの削減。	△	



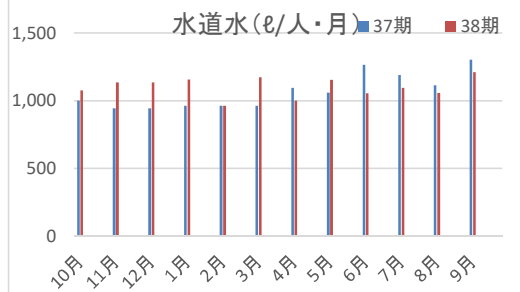
取組紹介欄



製品梱包に廃PPバンドを使用

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
36期	20.7	33.1	37.0	25.1	22.4	19.9	23.6	28.3	26.7	26.7	21.9	24.1
38期	18.3	20.6	21.8	24.5	20.7	24.9	19.3	23.4	25.8	26.9	23.3	21.0

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	数値目標としては期中に目標変更したことで達成した。対象である水資源は生活用水である。今期は全般的に繁忙であったことにより、稼働時間が通常より長くなり、生活水の使用量の増加に繋がった。それに2月に発生したクラスター以降手洗いを社員全員が徹底励行したことにより、更に使用量としては増加してしまった。活動としてはSDGsの掲示や来客数による水使用量の影響などを調査して、積極的な活動をおこなった。
節水意識を高める為、毎月の使用量と金額およびQ毎に水に関する掲示を行う	△	
コンプレッサーの水漏れチェックを行う。	○	
トイレ掃除の節水方法の検討。	○	
毎日の水道メーターチェック（営業部）	○	
散水機周りの植栽整備年2回（2Q4Q）実施（営業マシン作業効率による作業時間の削減。	△	
	△	



取組紹介欄



トイレ手洗いに節水啓蒙ポスターとSDGsロゴマーク掲示

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
37期	1,000	943	943	962	962	962	1,096	1,059	1,264	1,189	1,114	1,302
38期	1,077	1,137	1,137	1,157	962	1,173	1,000	1,154	1,057	1,094	1,058	1,212

【企業価値向上】

環境に配慮した生産活動	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
OJT教育を1回/月行う。	○	・OJT教育各課グループ毎に計画通りに実施できた。 ・品質会議は2月コロナ感染に拡大により、会議を中止した影響で計画通りには実施できなかった。 ・改善提案件数95件で、年間削減時間は526時間であった。メリット金額は計画に対して未達成であった。 ・始業前点検、月間点検も実施でき、要望保全の設備メンテも計画通りに実施できた。
品質会議による周知徹底	○	
改善提案による効率改善	○	
始業前設備点検及び月間設備管理	○	

取組紹介欄

新商品のパンフレット制作

6mシャワーリングに設置



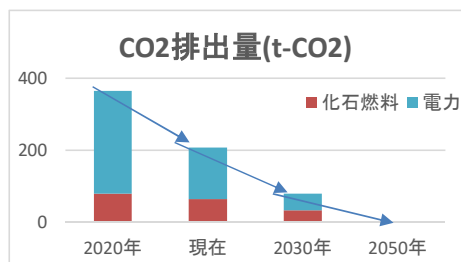
社会的課題を解決する取り組み	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
太陽光発電量の向上による購入電力の削減	△	・太陽光パネル劣化分を1/17～1/28の期間で242台(全数2344台)交換実施。 太陽光発電量は28期と比較して95%まで上昇した。 ・来期に社用車ハイブリッド車に入れ替えを行う。⇒12月ハイブリッド車に入替完了社用車13台中、7台がハイブリット車 導入率54%
緑地帯のメンテ及び増設	△	
社用車の高燃費車への乗り換え	○	
CO2係数の低い購入電力の検討	△	
環境配慮製品の開発と販売の推進	△	



## カーボンニュートラルに向けたわが社の取り組み

単位：t-CO2

	化石燃料	電力	対策
2020年	80	285	太陽光パネル考慮せず。
現在	65	142	省エネ+ハイブリッド車+太陽光発電
2030年	33	47	省エネ+太陽光発電+電気自動車+再エネ
2050年	0	0	省エネ+太陽光発電+電気自動車+再エネ



グラフ.1

### その他の取り組み

営業部・総務部の取り組み	達成状況
・建築物の耐久性の向上を行った。(事務所棟外壁塗装)	○
・小学生SDGsポスター協賛	○
・環境委員会を定期的(4半期に1回)実施している	○

製造部の取り組み	達成状況
・建築物の耐久性の向上を行った。(工場棟外壁塗装)	○
・予防保全のため計画メンテを行っている。	○
・5S活動を展開している。	○

**□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無**

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（廃プラ、廃油等）
消防法（危険物）	危険物の保管
フロン排出抑制法	業務用空調機
顧客要求事項	品質管理 マネジメントシステムの運用

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

**□外部からの環境上の苦情・要望等**

なし。

**□緊急事態対応の試行・訓練**

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2022/9/17	■実施場所 工場棟
■参加者： 木田、寅本、橋本、松矢、庄司、宮田、武島、深見、清水、西尾、塩田、島津、硯、川井、植田、松本、森山、松尾、田中	
■実施内容： <input checked="" type="checkbox"/> 怪我人運搬 <input checked="" type="checkbox"/> 消火訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 避難訓練 工場内ゴミコンテナ置き場より、出火を想定とし、指揮者への通報訓練・初期消火訓練・避難誘導訓練	
■評価：	手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
コロナ渦での効果的な訓練の模索を目的に訓練を行った。実施し、その場で不適切な点を指導し再度行う、これにより不適格な点が是正でき、正しい初期消火・怪我人の担架での移動・避難誘導が理解できたと考える、これは小集団で集中・反復した効果である。	
■実施状況の様子	

## □代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2022年12月1日

＜評価と見直し結果＞

①環境経営方針：6番の方針を整理し「エコアクション21の取組を通して、企業価値向上を目指します。」に変更し適用する。

②環境経営目標：環境経営目標に記載

③環境経営計画：環境経営計画書の取組結果とその評価に記載

④実施体制：現状体制を継続する。

⑤環境関連法規等の遵守状況：環境関連法規の取りまとめを行い、一覧を作成している。法規制の遵守を行っていることを確認した。

⑥その他環境経営システムに関する事項：不定期ではあるが、社長自らが現場の安全確認などを確認している。

＜総括＞

今期は人員も減少した中で、繁忙期が継続した状況の中での環境活動は社員の皆様には非常に困難な状況であったと思います。しかしながら、人員減・業務多忙の中、心身ともに疲労しているにも関わらず確実に活動をして頂いたことは大変感謝いたします。

今回のことで、多忙であろうが社員のみなさんは環境活動を業務の一部ととらまえ活動して頂いたことが痛感いたしました。

今後エネルギー価格は更に高騰が予想される中、様々な経費アップとなり経営を圧迫します。しかし当社員は環境・コストダウン活動は業務であるとの意識が定着しているので、環境・コスト課題が発生しても対策を講じる土壌が出来ている。然しながら想定外の課題も出てきます、しかしその課題を克服するために様々な事を調査し分析します、それは自分自身のスキルアップに繋がります。

課題を克服すればそれはノウハウになり、水平展開にも通じます。だからどんどん課題にぶち当たってください。

これが、皆様の財産になり会社としても利益になります。今後とも全員参加で環境活動をがんばりましょう。

環境経営方針	<input type="checkbox"/> 変更なし	<input checked="" type="checkbox"/> 変更あり
環境経営目標・計画	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
実施体制他	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり

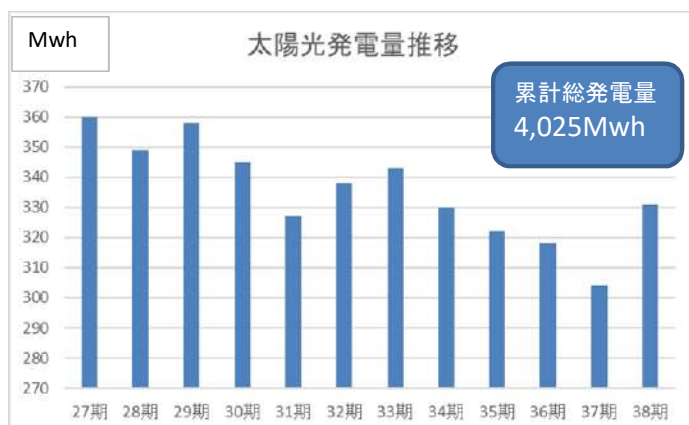
## □これまでの環境活動の紹介



SDGs協賛



グループ会社に騒音防止遮音壁



## □編集後記

今期は昨今類を見ないほどの仕事量が多く繁忙な期でありました。その中で私のポジションである総務も多忙を極めました、環境レポートも計画通りに進捗しませんでした。昨年も非常に遅れてしまった事を踏まえ今期は前倒しに完成できるように審査人のアドバイスも受けながら進めた結果、何とか納期に間に合いました。認証して17年も活動継続すると、本来やるべき事がぼやけてしまっていたのですが、今回審査人からのご指導のお陰で、「スッキリ」しました。まだまだ問題は山積していますが、原点を見失なくことなく活動展開します。